

新たな公共交通サービスの導入について

公共交通ネットワークの充実に向けた取組として進めている新たな公共交通サービスの導入に関して、実証実験の検証方法や今後の事業の進め方等について、中野区交通政策推進協議会における関係者協議を踏まえ取りまとめるとともに、中間評価を行ったので以下のとおり報告する。

1 実証実験の概要

(1) 運行計画

別紙1のとおり

(2) 実証実験に関する基本的な考え方

地域内の移動手段となるラストワンマイル交通は、民間でも提供可能な公共交通サービスと考えているが、地域ごとに様々な特性があり、需要の把握や画一的なサービスの提供が難しい状況にある。

このため、公民連携で実証実験を行い、利用実績から地域内の需要や効果を的確に把握するとともに、公共交通サービスとして徐々に定着を図り、将来的に民間主体でのサービス提供を目指していくこととし、こうした点を踏まえながら検証を行っていく。

2 利用実績・利用者アンケート等

別紙1のとおり

3 実証実験の検証方法

(1) 検証の基本的な考え方

- 公共交通サービスとしての地域への定着には時間を要し、最長で3年程度かかるものと想定する。
- 実証実験の計画、見直し等に関する評価は、半年毎に行うこととし、評価をもとに中野区交通政策推進協議会において継続または中止等について協議したうえで、区が協議結果を踏まえ最終的に実証実験の継続に関する判断を行う。但し、令和5年度当初の実証実験の継続・中止の判断は、直近2か月の実績に基づき、中間評価として実施する。
- 目標とする収支率は段階的に引き上げ、基準値以上であれば実証実験を継続して、次に設定した基準値を上回れるよう改善を図るものとする。但し、基準値を下回った場合は、アンケート調査等によって得られた「地域住民の利用（継続）意向」や「生活の質の向上」に関する結果も含め複合的に判断する。

- (2) 評価基準・検証フロー
別紙2のとおり

4 令和4年度中間評価

- (1) 評価対象期間

令和4年10月18日～12月17日

- (2) 評価結果

令和4年度収支率の目標値（基準値：30%、下限値：10%）に対し、中間評価における収支率の実績値は約7%となっている。そのため、令和4年度内に収支改善及び利用促進のための短期的な取組を行い、収支率が10%を上回るよう取り組む。

その結果、評価基準による検証フロー上、「実証実験の継続【一時中断含む】（収支改善に向けた計画見直しを実施）」に該当することが見込まれることから、運行期間終了後の令和5年4月1日以降も、引き続き実証実験事業を継続する。

但し、地域との停留所及び運行に関する調整の結果、一部停留所の廃止及び運行ルートの変更要望があり、運行ルートを変更するための関係機関との協議及び手続きに時間を要することから、運行については一時中断し、運行ルートを見直した上で令和5年度に再度実証実験を実施する。

5 今後の取組内容 ※詳細は別紙2のとおり

- (1) 短期的な取組（年度内に実施）

- 1日の運行本数の変更
- 運賃割引キャンペーン並びに車内及び停留所での施設案内等の利用促進策
- 通勤時間帯の利用状況を把握するための朝の運行ルート・ダイヤの設定

※但し、上記のうち朝の運行ルート・ダイヤの設定は、交通安全に関する関係者調整が図れた場合に実施する。

- (2) 来年度に向けた取組

- 運行ルート等の見直し

6 今後のスケジュール

令和5年1月～3月	施設案内等の利用促進策、住民アンケート等の実施
2月	運行本数変更や運賃割引キャンペーン、朝の運行ルート・ダイヤの設定に関する周知
3月	運行本数変更や運賃割引キャンペーン、朝の運行ルート・ダイヤの設定の実施
3月31日	実証実験運行期間終了
4月1日	実証実験運行の一時中断
7月以降	実証実験運行の再開

1 運行計画

運行計画

- ① 運行期間：
R4年10月18日～
R5年3月31日
- ② 運行時間：
午前9時～午後8時
- ③ 運行間隔：
20分～30分
- ④ 車両（乗客定員）：
ワゴンタイプ（10人）
- ⑤ 運賃：
大人 200円
小人 100円
- ⑥ 運行ルート：
右図のとおり（7.36km）

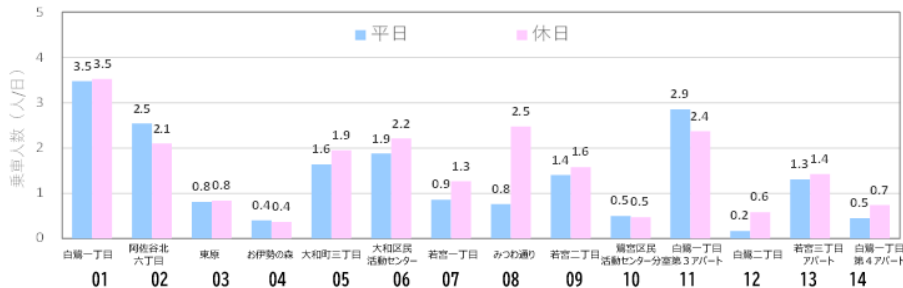


2 利用実績(令和4年10月18日～12月17日)

■1日あたり平均の推移(週次)

項目	単位	10/18～	10/24～	10/31～	11/7～	11/14～	11/21～	11/28～	12/5～	12/12～
日数	日	6	7	7	7	7	7	7	7	6
乗車	人	228	140	149	118	118	114	117	126	116
1日平均	人	38.0	20.0	21.3	16.9	16.9	16.3	16.7	18.0	19.3

■利用状況(停留所別乗車人数) ※対象期間の1日あたり平均人数

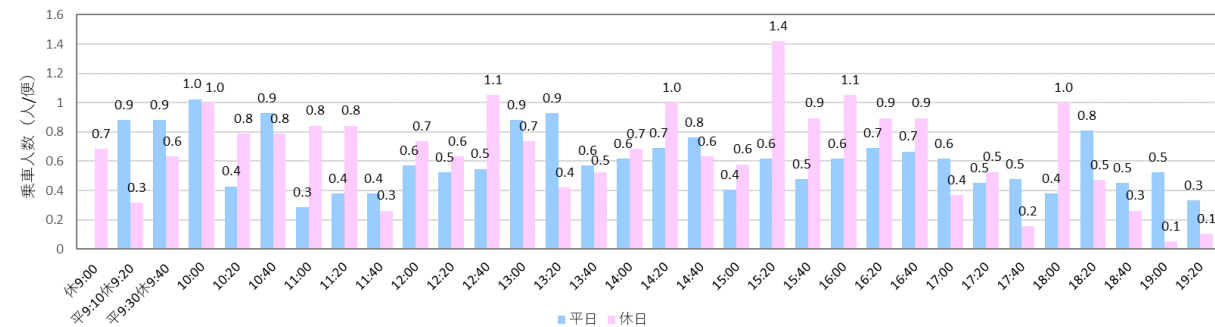


■平均利用者数
平日:19.3人
(1便あたり0.6人)
休日:21.9人
(1便あたり0.7人)

■収支率
約7%
(収入:約25万円/経費:約336万円)
※初期経費除く

■乗車人数0人の便
1日の運行便数の約6割

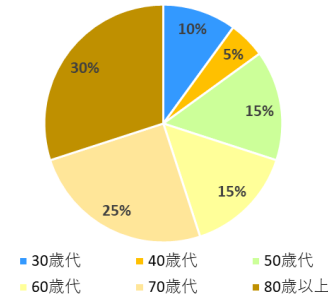
■利用状況(運行便別乗車人数) ※対象期間の1便あたり平均人数



3 利用者アンケート等

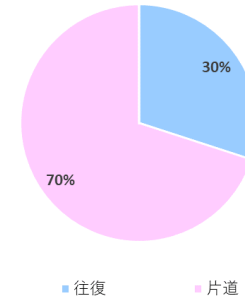
■利用者アンケート調査結果

回答者年齢

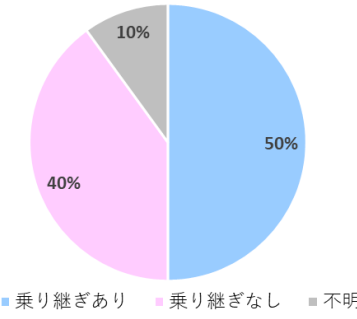


※20歳代以下は回答なし

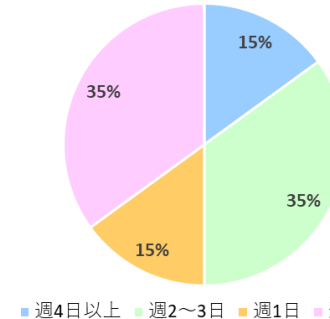
往復・片道利用の別



路線バスへの乗り継ぎ利用

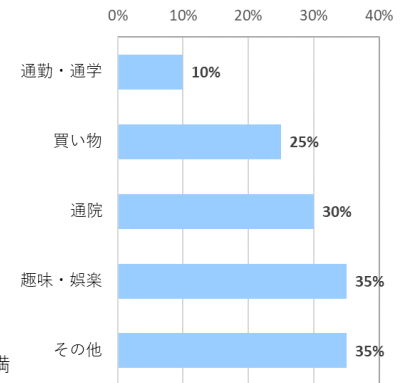


利用頻度

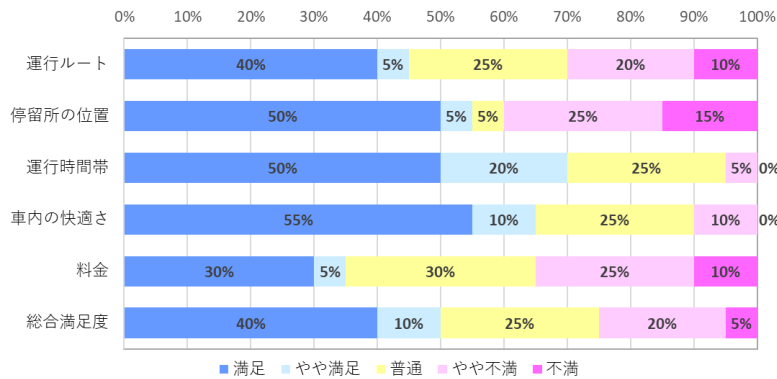


【アンケート方法】
○時期:令和4年11月27・28日
○対象:新たな公共交通サービス実証実験の利用者
○方法:添乗調査員により、利用者へアンケート票を配付し、後日、郵送により回収
○回答者数:20名

利用目的



中野区地域公共交通サービスに対する満足度



■地域交通勉強会(若宮・大和町地区)や地域の主要要望

- ・運行ルート及び停留所位置の見直し
- ・停留所の増設
- ・運賃の引き下げ及び割引制度の拡充
- ・停留所付近の施設案内の掲示
- ・運行時間の見直し(通勤時間帯の運行)

【課題】

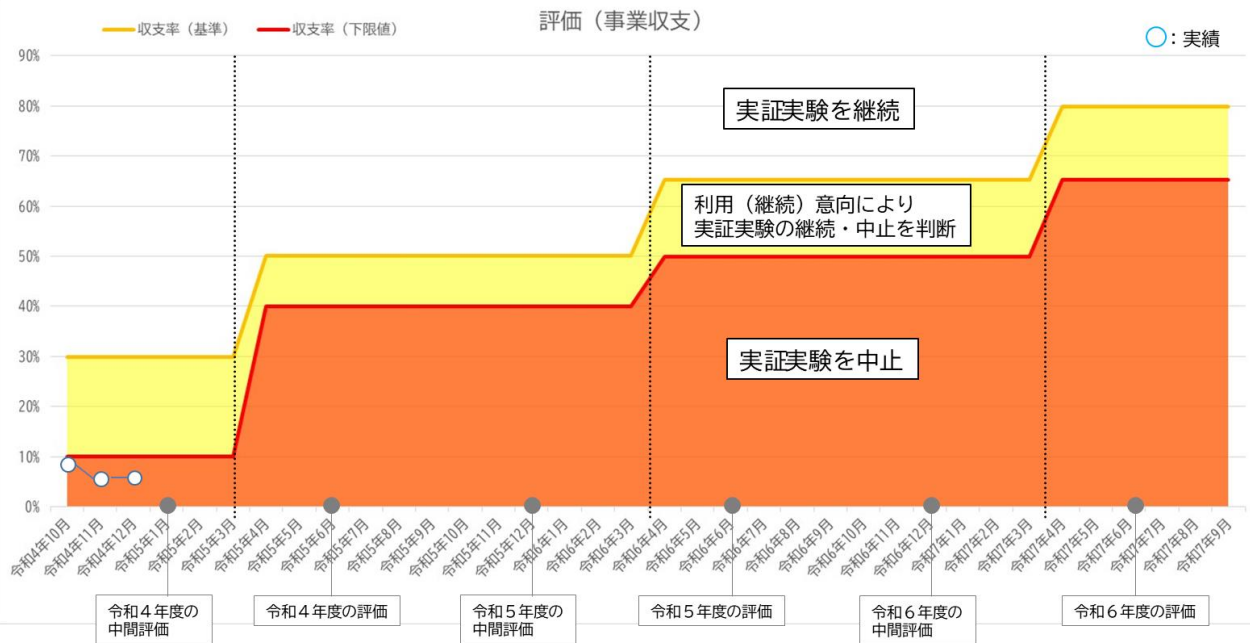
- ・交通規制や道路環境、関係機関や地域との調整の関係上、利用者や地域の需要を満たした運行ルートを対象地域内で計画することが難しく、運行範囲を広げる等の検討が必要である。
- ・運賃に抵抗を感じている地域の方が多く、運賃設定を見直す期間等を設け、利用者増加の傾向を検証する必要がある。
- ・説明会やチラシ以外にも、近くの施設の案内を車内アナウンスや停留所への掲示で行う等少しでも利用しやすくなるように、広く周知を行う必要がある。

1 評価基準

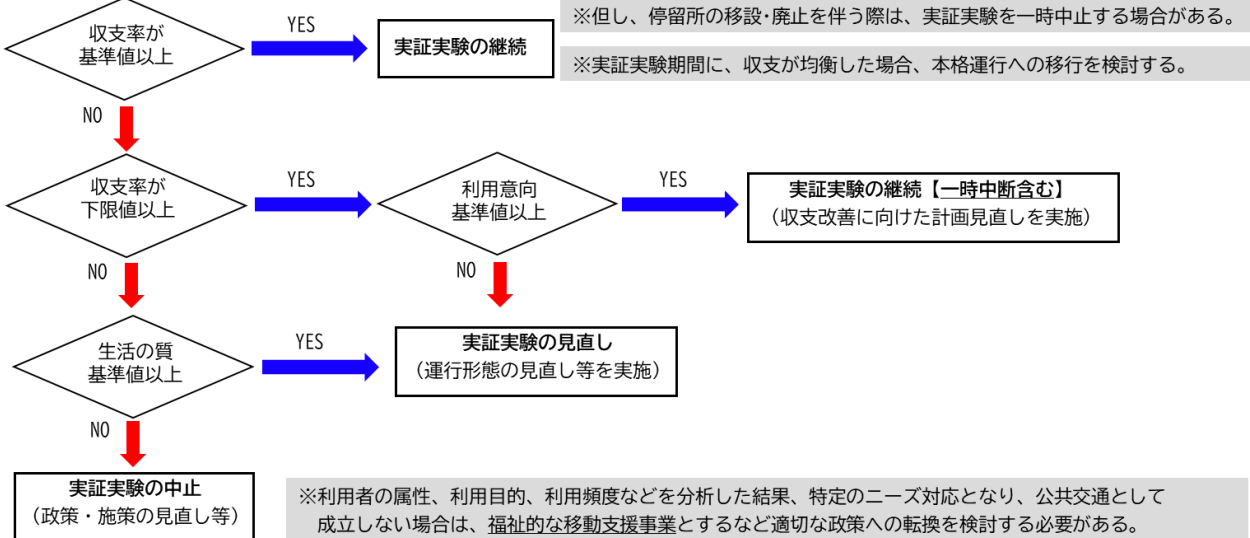
■評価方法

- 収支率(収入/経費)について基準値・下限値を設け、利用実績を基に評価する。
- 収支率は段階的に目標値を引き上げる。
- 但し、基準値を下回った場合は、住民アンケート調査等によって得られた「地域住民の利用(継続)意向」や「生活の質の向上」に関する結果も含め、複合的に評価する。

■評価基準



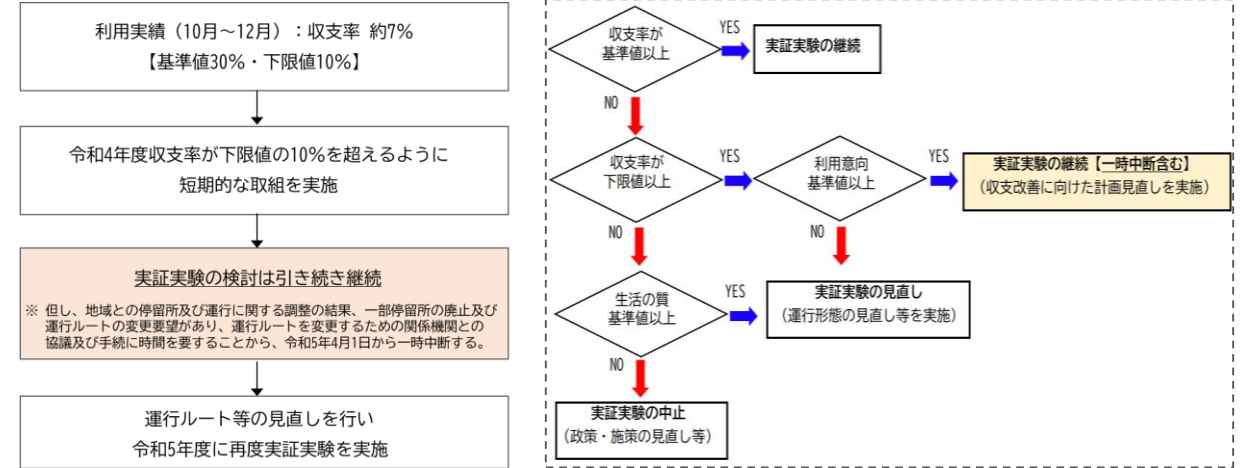
■評価基準による検証フロー



※「生活の質の向上」について
「新たな公共交通サービスにあなたが期待する効果」を調査し、令和3年度の利用意向アンケート結果と比較することで可視化する。

- 【期待する効果の例】
- ・買い物などで外出の機会が増える
 - ・働く機会が増える
 - ・人と接する機会や新たな出会いが増える
 - ・移動が便利になり住みやすさが向上する
 - ・地域のイベントに参加しやすくなる

2 中間評価結果



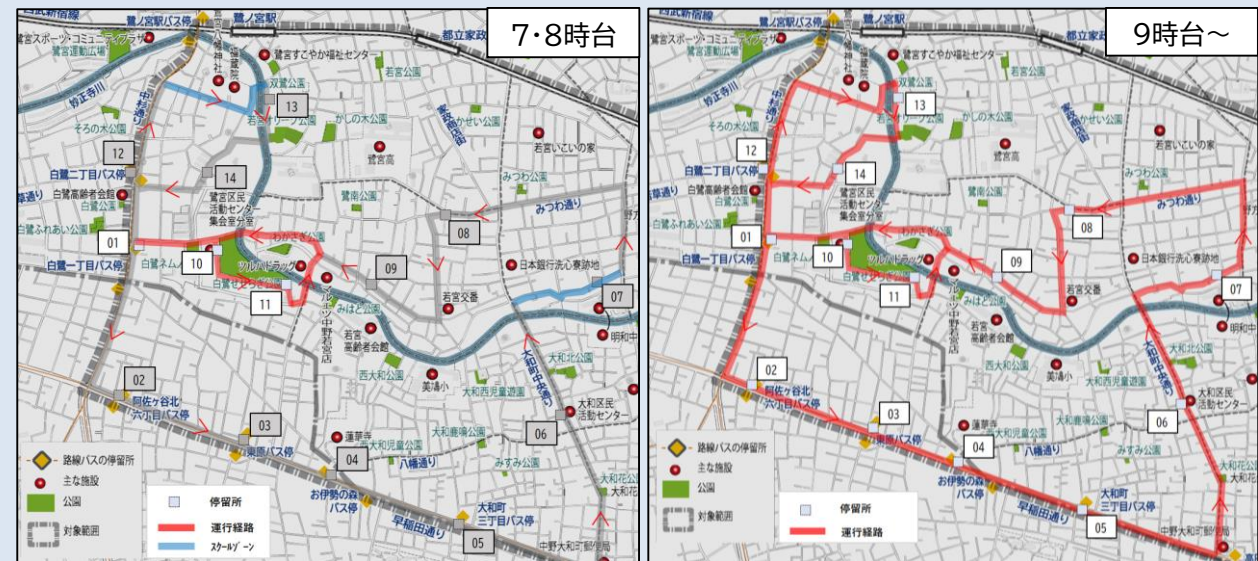
3 今後の取組

■短期的な取組(令和4年度実施)

- 1日の運行本数の変更(3月予定)
 - ・乗車人数0人の便が6割程度あることから、利用実態に合わせ、運行本数を現在の4割程度に変更し、経費を抑えた運行ダイヤの編成を行う。
- 利用促進
 - ・運賃割引キャンペーン(3月予定)
 - 大人:100円
 - 小児:100円 ※1乗車あたり
 - ・車内や停留所での施設案内の実施(1~3月予定)

○朝ルートの運行(3月予定)

- ・通勤時間帯の利用状況を把握するため、朝の運行ルート・ダイヤを設定
- 運行ルート: 下関(利用の多い且つ、スクールゾーンを考慮した区間)
- 運行時間帯: 7・8時台 (9時台~: 現行ルートを運行)



■来年度に向けた取組

- 運行ルート等の見直し
- 現在は、対象地域内での運行を条件として事業を進めていたが、運行範囲を広げ、駅への接続や反対方向の周回等への可能性を再度検討する。